

温泉地のまちづくりにおける 社会関係資本の効果

金井雅之

kanaim@e.yamagata-u.ac.jp

第46回数理社会学会大会(2008/8/30)

温泉地のまちづくりの課題

2

統一された景観や集客のためのイベントには
個々の旅館の負担が必要

自館の経営や他の旅館との競争にとっては
マイナス

しかしそれをしないと温泉地全体が低迷
(⇒ 社会的ジレンマ)

温泉地内部での関係

まちづくりの方向性を考えるためには
他の温泉地からの情報やアイデアが必要

温泉地外部との関係



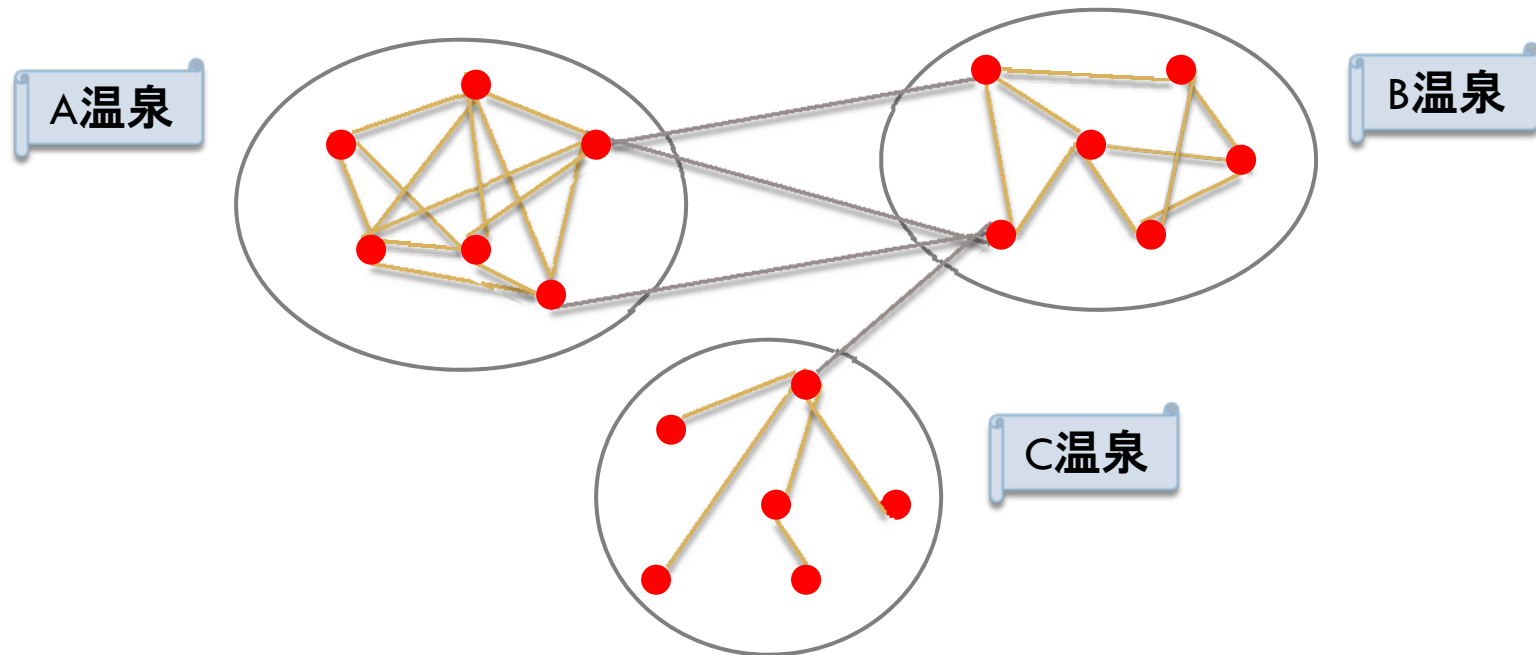
木造旅館の立ち並ぶ景観
(銀山温泉)



地域一体で実施するイベント
(小野川温泉)

社会関係資本の2類型

3



集団内のつながり

集団間のつながり

結束型ネットワーク
(bonding)

橋渡し型ネットワーク
(bridging)

各ネットワークの理論的効果

4

結束型(内部)ネットワーク

- 相互監視による規範・制裁
(⇒ 協力行動の促進)

Coleman (1988)

- 情報伝達や意思決定が
スムーズに

Burt (2001, 2005)

橋渡し型(外部)ネットワーク

- 内部では得られない情報や
アイデアの入手

Granovetter (1973)

まちづくりに重要なのは、結束型か、橋渡し型か？

事例：山形県小野川温泉のまちづくり

5

温泉街の住民の7割は観光に従事していなく、過去には地域経済に力がある旅館業と一般住民との軋轢があり、**地域一体の共存感が希薄であった**。これは小野川温泉特有の事でなく、多くの温泉地が抱える問題である。「旦那衆」と言われる大規模旅館があり、「女中さん」として働く地域民の女性がおり、地域内の平等感が損なわれ、上下関係の意識もあった。…この上下関係の意識は、大規模旅館と小規模旅館、旅館と商店でも存在していた。全国的に「温泉地は仲が悪い」と言われ、同業種・異業種間でも存在していた。**互いに信頼し、本音で話をできる関係は希薄であった**。

（観光協議会会長 蔦幹夫氏）



小野川温泉のまちづくり (2)

6

昭和55年から小野川温泉ほたるまつりが行われている。新たなる小野川温泉の魅力作りで、「ほたるの里」づくりが行われ、祭りの成功の目標に向け、旅館・商店の人が額に汗するボランティア作業が行われた。この共同作業の結果、業種や年齢に関係なく、意見を自由に言えあえる人間関係ができた。そして、「ほたるの里」づくりの成功で、個々の努力だけでなく、協力しながらの、小野川全体の魅力づくりの大切さを学んだ。

(観光協議会会長 蔦幹夫氏)



小野川温泉のまちづくり (3)

7

「ホテルの里」づくり以外に温泉街活性化策がなく、新たなる小野川の魅力作りを見出せない中、平成13年にJTB&JRの若手勉強会が来訪した。「そこに住む人、町全体の生活や文化を活かした観光地づくり、ハード偏重でなく地域のホスピタリティーを基礎としたオンリーワンの観光地づくり」が提案された。ないもの探し、ないものねだりの新規の箱物を作る事でない、今、小野川にある素材を知り、大切にし、輝かせるまちづくりの大切さを感じた。・・・「ハードからソフト」のまちづくりがはじまった。

(観光協議会会長 蔦幹夫氏)



ところで...

いろいろな魅力が発見されました。しかしそれはわれわれが探したというよりも、外部との接触によって見つかったという感じがしています。たとえば言うなら、それまでは殻の中にいた温泉地が、外部からの圧力によって殻から出たというようなものです。

(観光知実行委員会委員長&観光カリスマ 佐藤雄二氏)

結束型ネットワーク(=殻)は、橋渡し型ネットワークと両立しうるのか？

問題の立て方の転換

9

- ✓ 結束型ネットワークと橋渡し型ネットワークはどちらが重要か？
- ✓ 結束型ネットワーク(=殻)は、橋渡し型ネットワークと両立しうるのか？



まちづくりには発展段階があり、
それぞれの段階で効果を発揮するネットワークが異なるのでは？

計画なし

計画中

計画完成

社会調査データによる計量的分析

温泉地活性化に関する社会調査

10

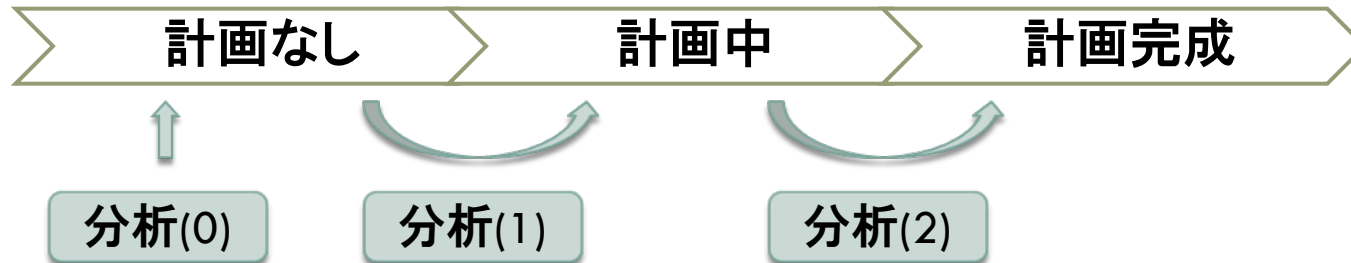
対象温泉地	長野・山形・群馬・新潟で、旅館組合への加盟旅館数が10軒以上あるすべての温泉地
調査方法	送付・回収とも郵送による自計式質問紙調査

	旅館調査	組合調査
調査対象	旅館組合に加盟するすべての旅館	すべての旅館組合
調査時期	2007/1/23～2/20	2007/1/23～4/25
調査対象数	1,515軒	56温泉地
回収数(率)	779軒 (51%)	51温泉地 (91%)

今回は温泉地を分析単位として使用(N=51)

分析枠組みと手法

11



分析	従属変数(まちづくり計画)	独立変数(ネットワーク)
(0)	計画なし (⇔ 計画中 + 計画完成)	結束手型・橋渡し型
(1)	計画中 (⇔ 計画なし)	結束手型・橋渡し型
(2)	計画完成 (⇔ 計画中)	結束手型・橋渡し型

質的比較分析(クリस्प集合型)

分析(0): 計画なしの原因

12

計画なし

計画中

計画完成

結束型	橋渡し型	該当数	計画なし数	計画なし比率	判定
あり	あり	16	1	0.063	計画なしでない
あり	なし	6	0	0.000	計画なしでない
なし	あり	14	5	0.357	計画なし
なし	なし	12	4	0.333	計画なし
	計	48	10	0.208	

結束型ネットワークが存在しないことが、その温泉地がまちづくりに未着手であることの原因

橋渡し型ネットワークは「あってもなくてもよい」

分析(1):計画なし ⇒ 計画中

13

計画なし

計画中

計画完成

結束型	橋渡し型	該当数	計画中数	計画中比率	判定
あり	あり	13	12	0.923	計画中
あり	なし	5	5	1.000	計画中
なし	あり	10	5	0.500	計画中でない
なし	なし	11	7	0.636	計画中でない
	計	39	29	0.744	

結束型ネットワークが存在することが、その温泉地がまちづくりに<未着手>から<計画策定中>に移行することの原因

橋渡し型ネットワークは「あってもなくてもよい」

分析(2): 計画中 ⇒ 計画完成

14

計画なし

計画中

計画完成

結束型	橋渡し型	該当数	計画完成数	計画完成比率	判定
あり	あり	15	3	0.200	完成していない
あり	なし	6	1	0.166	完成していない
なし	あり	9	4	0.444	完成
なし	なし	8	1	0.125	完成していない
	計	38	9	0.237	

結束型ネットワークが存在せず、
かつ橋渡し型ネットワークが存在することが、
その温泉地がまちづくりの<計画策定中>から<計画完成>に移行することの原因

結果のまとめと解釈

15



結束型ネットワークが存在すること

- まちづくりへの取組みを始めるためには、旅館同士が緊密で良好な関係にあること(≡仲がよいこと)がまず必要。
- 協力関係を築きやすいから。
- この段階では外部とのつながりはなくてもかまわない。

橋渡し型ネットワークが存在し、かつ結束型ネットワークが存在しないこと

- 計画を形として仕上げるためには、意欲だけでは不十分。外部からの情報や視点が必要になる。
- その際に、内部での仲のよさは閉鎖性という弊害をもたらすため、一時的に抑制する必要があるのかもしれない(「外部からの圧力によって殻から出る」)

結論と今後の課題

温泉地のまちづくりにおいて、
まちづくりを始める段階では<内部での仲のよさ>が、
まちづくりを完成させる段階では<外部との人脈>が
重要である。

つまり、全体としてみれば、この2つが両方存在しないと
まちづくりは完成しない。

各段階において<内部>と<外部>が排反関係にある
のか相乗効果をもたらしているのかについては、もう少し
詳細な事例研究が必要である。